

根幹は戦争をしない国

日本共産党
流山東部
後援会

ニュースわかば

世論激変

9条改憲反対急増

安倍政権が勝手な憲法解釈改憲で集団的自衛権の行使容認を進める改憲暴走に対し、批判の声が巻き起こっています。

（日本共産党の志位和夫委員長は、日比谷公会堂での5・3憲法集会2014で発言しました。要旨を紹介します）

私たちは、今年の憲法記念日を、安倍政権の集団的自衛権行使容認への暴走という緊迫した情勢のもとで迎えました。

安倍政権の狙いは、集団的自衛権行使、多国籍軍への参加の2本柱で、「海外で戦争する国」をつくらうというところにあります。

この道に踏み込めば、日本の自衛隊が他国の人を殺し、自衛隊員から戦死者が出ることは避けられません。それは生易しいものではありません。

憲法改憲反対の一点で共同する「九条の会」は約7500に広がり、全国各地で多彩な活動を展開しています。

調整してみましたらアフガン戦争では、派兵した諸国のうち29カ国で3435人の兵士の命が失われ、国連アフガン支援団の資料によ

ると2007年以降だけで1万7千人を超えるアフガンの民間人の命が奪われています。日本を、このような、「殺し、殺される国」にしたいのかが問われています。若者を文字通りの戦場に送っていいのかが問われています。断固として「ノー」の声を突きつけようではありませんか。

「限定行使」というのはごまかしです。実態は無限定です。「歯止め」もなければ、根拠もありません。

世界に誇る日本の宝——憲法9条を守るとともに、その生命力を生かして、アジアと世界の平和に貢献する新しい日本をつくらうではありませんか。ともに頑張りましょう。

世界に誇る日本の宝——憲法9条を守るとともに、その生命力を生かして、アジアと世界の平和に貢献する新しい日本をつくらうではありませんか。ともに頑張りましょう。

世界に誇る日本の宝——憲法9条を守るとともに、その生命力を生かして、アジアと世界の平和に貢献する新しい日本をつくらうではありませんか。ともに頑張りましょう。

「九条の会」10周年記念講演会

- 日時 6月10日(火) 午後6時開会
- 場所 渋谷公会堂
- お話し 大江 健三郎、奥平 康弘、澤地 久枝ほか
- 参加費 前売 1,000円、当日 1,500円

「大島憲章」のはなし

大島では、昨年土石流災害があり、その後の島民の様子や復旧状況等がニュースでとりあげられています。皆様にはご支援や励ましをいただきありがとうございます。

ご存知ですか、大島が53日間日本から見捨てられたことを。

1945年8月日本は戦争に敗れポツダム宣言を受諾しました。宣言では日本の領土として、本州、北海道、四国、九州、それに連合国が決めるいくつかの島々と決められていました。1946年「奄美諸島、小笠原諸島、伊豆諸島は日本の行政区から外す」という覚書を通告してきました。

この瞬間、大島は日本の国ではない「独立国」「大島共和国」となったのです。当時の大島の各層各界の代表者が大会議を開き、拳で涙を押し拭いながら、大島独立の憲法をめざし熟議を重ねたということです。できあがった暫定憲法では「統治権は島民にあり」とした主権在民や議会主義、平和主義をうたいました。

2ヵ月後、行政分離が解除され、大島をはじめ、伊豆諸島は日本に戻されることになったのですが、敗戦後の混乱の時代、「日本国憲法」の議論が始まる前に、自分たちの力で「大島共和国憲法」を作ろうとしたのです。大島にはこんな素晴らしい歴史があることを知りました。ぜひ皆様で大島の自然や歴史を辿りに来てください。

大島観光特派員 (松ヶ丘) 横田記代

就学援助の周知徹底を

流山生活と健康を守る会のなかに作られた「教育制度を考える会」(関本智子会長)は5月7日、就学援助の拡充と消費税増税に対応した支給単価の引き上げを求めて、教育委員会に陳情をしました。



文科省は消費税増税に対応した支給単価の引き上げ通知を周知するとの見解を示しました。そこで流山市でも文科省の通知を確認し、交渉を申し入れたのです。

学校教育部長は就学援助の支給内容と金額について、国基準を下回っていることを認め、消費税増税に対応した支給単価引き上げについては「前向きに検討したい」と回答しました。

就学援助は、2012年度は小・中学生155万人が利用し、利用率は年々上昇し、15・6%と過去最高となっています。しかし千葉県では、県内自治体の就学援助認定率は平均7%台。相対的貧困率から推定すると受ける資格があるのに制度を知らないなどの理由で受けていない人が多くいることとなります。就学援助制度の周知徹底が求められます。

千葉県生活と健康を守る会 連合会会長 (松ヶ丘) 妹尾七重

部内資料
発行責任者
竹内和男

Tel・fax: 7143-3086



5月から「しんぶん赤旗」日刊紙、日曜版の税込価格を次のようにさせていただきます。

日刊紙: 1ヵ月3,497円
日曜版: 1ヵ月 823円

徳増きよ子 生活相談室

毎週金曜日
午後1時~4時
無料

電話: 7144-1753
議員 090-8342-3141

日本共産党市議会議員
徳増きよ子事務所
松ヶ丘2-330-144
郵便局の通りです

東部近隣公園が安全に利用できるよう市と交渉しました

「東部近隣公園」をいつも利用している方から西松ヶ丘から公園に入る階段に手すりをつけてほしい、丸太式階段の土が少なくなっていて危険だ、という話を聞いて現地を見に行きました。確かに子どもや高齢者が多く利用している公園の階段に手すりがあれば安心して上り下りできます。入口の階段だけでなく数力所ある階段にもあった方がいいなと思います。丸太式階段も土が少なくなっていて転びやすくなっています。

5月8日に私と徳増市議など4人で「東部近隣公園」が安全に利用できるよう求める要望書で対市交渉を行いました。①東部近隣公園の各階段に手すりを取り付けてください。②東部近隣公園の土が少なくなっている丸太式階段を補修してください。の2点です。みどりの課の天川課長さん他2の方が対応してくださいました。

私たちの持っていった公園の地図を示しての説明に「要望については全くその通りだ」と思う、今年度の予算は遊具の点検・修繕が第一と考えていてお金のかかる手すりをすぐに全部やれるとはいえない

が必要性の高いところから順次と考える、現地調査も行う」との回答を得ました。また丸太式階段の土が少なくなっているところについては今年度の予算の中から部分的に直していけるとのことです。

この公園は大雨の時には水溜りになってしまうという話も出て、みどりの課もそのことは承知しながら何の対応もしてこなかったこともわかりました。2力所あるマスが小さすぎるので大きくすればよいとのこと。このことも含めて現地調査の際には私たちが立ちあう予定です。

(前ヶ崎) 若山とし子

むりよう塾

「むりよう塾」と聞いてみなさんおわかりになりますか？

就学援助(小・中学校に通う児童・生徒の保護者に給食費や学用品等の一部を援助する制度)をよりよくしようというところから生まれた「流山市教育制度を考える会」では、お金がかからずに子どもたちが、わからないことを訊けたり、教えてもらったり、子どもたちのいる場所をつくりたいということ、むりよう塾実行委員会をつくり活動をはじめました。

中学生になるとほとんどの

子が塾に通うのが当たり前になっていて、親の負担は大きく、行かせてあげたいけれども行かせてあげられないという現実もあります。

そこで退職された先生方や、ご協力いただける地域の方々を中心に、子どもが安心して勉強や進路の悩みに応えてもらえるところが「むりよう塾」です。といっても第1回の勉強会は5月11日に行われたばかりで、出来立てのほやほやです。

私は親の立場での要望や自分の子どもの通しての呼びかけ位しか、いまのところ協力できていませんが、塾から帰っ

てきた高一の娘、中一の息子にどうだったと聞いてみると、もっと勉強するのと思った、ともう少しやりたかった様子、高一の娘は数学も教えてもらいたかったといっていました。学校では訊きにくい、わからないところを訊けるのがいいようです。

いまの子どもは、わからないから教えてほしいと学校ではいいにくいそうです。私からみると、塾の先生方には人間的な魅力があり、指導には熱意を感じますので、これからの発展をとっても楽しみにしています。

(松ヶ丘) 関本智子

(松ヶ丘) 谷川光江

悩んでいないで相談を

名都借と西松ヶ丘地域の境にある東部近隣公園の階段に手すりがあれば、安心・安全なのだがと、地域の方のことはを受けて、市のみどりの課に要望に行き、「現地を見に行きます」と回答がありました。

ほかに、地域の方からは、困ったことがあれば、徳増事務所に相談に行ってみてはと云われて、事務所にいらっしゃる方が増えているようです。

個々に悩んでいないで、先ずはご相談にお出でになっては如何でしょうか。

「日本共産党の深層」を読んで

私は今年1月に、共産党に入党しました。毎日「赤旗」を読み、毎週、支部の会議に出席して少しずつ勉強を続けています。

先日この著書を読み、一番印象に残ったことは、やはり国民の苦難軽減に、一貫して取り組んできたこの党の姿勢です。



また、不正や疑惑に鋭く切り詰める姿勢が、この党の強みである。赤旗記者の取材やスクープの話もすごく面白かったです。ほかの野党が無力化しているなかで、このような書物が発売されたことに、少し「ほっと」しています。

(松ヶ丘) 原田洋介

映画「鉄くず拾いの物語」

ポスニア・ヘルチェゴビナ 74分 2013年 5月24日よりTKPシアター柏にて (柏高島屋1階)

90年代に激しい戦争にみまわれたポスニア・ヘルチェゴビナに住むロマ(ジプシー)は現在では不適切な表現になりました(の一家の実話を基にした物語です。貧しい鉄くず拾いの一家の妊娠中の妻が病気になるますが、保険証の無い彼らには高価な病院の手術費もありません。分割払いも拒否され、必死で鉄くずを拾い、国の援助を求めするために夫は街へ行きますが、

貧にあえぐ人々は少なくあり、難題に挑む姿がわかり易く描かれていて、改めてこの党の値打ちを強く感じました。 畑野君枝さん、吉良よし子さんらの地道な頑張り、松本善明さん、市田忠義さんの若き日の歩みなど、興味深く読めました。

(松ヶ丘) 北村真平

ヨーロッパと言えども、極貧にあえぐ人々は少なくあり